

<学校名> 朝霞市立朝霞第二中学校

<所在地> 朝霞市岡199

<電話> 048-461-6540

<本事例の特徴>

英語科の授業で、外国の地理や文化などの具体的事例を積極的に取り上げ、日本と異なる世界の様子について知識を獲得させると共に、そこに生活する人々への共感的理解を深める指導を行った。

<具体的な取組や成果>

(1) 1学年

1学年では、世界の国々について理解が深まるよう、授業開きの際に、ALTに写真や小道具を用いて自己紹介をしてもらった。実際に外国の生活の様子や、食べ物の写真から興味・関心をもった生徒は、より積極的にALTの出身地について質問をするようになった。

教科書の内容に関しては、「国際フードフェスティバル」の題材において、多くの国を扱い、それぞれの国が登場した際には、カレーや民族衣装の写真を見せたり、実際に食べたことのある韓国料理を取り上げて、生徒の国際理解への興味・関心を高めることができた。

(2) 2学年

助動詞（未来表現）を学習するに当たり、外国への旅行を想定した旅行計画を英作文題材とした。自分の行きたい場所（国）、そこに何があるのか、何が有名であるのか、どのくらいフライト時間を要するのか、また日本との時差はどの程度のものなのか、国内旅行との差異への“気づき”を求めた。

こういった気づきが、異国への興味や関心を生み、言語活動への向上が期待できた。

国の大小に関わらず、そこには首都があり、各言語があり、独特の文化があることを考えさせ、単に観光旅行だけを題材に英文を作成させるのではなく、上記のようなことを意識させた。

(3) 3学年

教科書の内容で、日本の学校で使われているチャイムの音は、イギリス・ロンドンにあるビッグベンの鐘の音と同じであるということを取った。本年はロンドンでオリンピックが開催されたということもあり、生徒は英国やロンドンに興味をもっていた。ビッグベンだけでなく他の観光地を紹介したり、英国特有の言語や文化について触れ、生徒の興味・関心を深め膨らませるように努めた。

2学期は、オーストラリアでは日本食がより人気になっているという内容を扱った。教師自身の現地での経験談を写真を用いて話をしたり、オーストラリアだけでなく、世界の食文化にも触れた。生徒にとって身近なマクドナルドのハンバーガーの話題から、スペインのパエリアなど多くの生徒が知らない話題も用いて、生徒の関心を世界にむけるように努めた。